

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果について

喜多方市教育委員会

1 はじめに

全国学力・学習状況調査（以下「調査」と言う）については、平成19年度から文部科学省において実施されてきました。（平成23年度は東日本大震災のため、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響のためそれぞれ中止）

喜多方市教育委員会では、この調査の結果について、本市における教育施策を検証・改善するための指標の一つとして活用してきました。

また、本市では、令和3年度より全ての小・中学校に学校運営協議会を設置し、「コミュニティ・スクール」としたところであり、学校運営について、保護者や地域住民の皆様とともに連携・協働しながら進めております。教育委員会としましては、この調査の結果につきましても、保護者や地域住民の皆様と共有すべき重要な情報の一つと考えております。

これらのことから、教育委員会では、市民の皆様に対して、市全体の平均正答率について教科別に数値でお知らせいたします。今回公表する調査の結果については、これまでの学校教育における取組の結果であると受け止め、今後の教育施策へ反映してまいりたいと考えております。

保護者の皆様には、この度の公表内容に加え、各学校から提供される情報をご覧いただきますとともに、家庭学習と生活習慣の確立やメディア接触や地域とのつながりの望ましいあり方等について家庭が果たすべき役割もご理解いただきたいと思います。

子どもたちの健全な成長のために、教育委員会や学校としても今後とも一層努力してまいります。保護者や地域住民の皆様の協力も不可欠であると考えています。今後とも互いに連携した取組を進めていきたいと思っておりますので、ご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

なお、公表結果については、次の点についてもご理解ください。

- 今回の公表は、過度の競争や学校の序列化を意図したものではありません。
- 公表する調査結果は学力の一部を表したものであり、学校教育の成果の全てではありません。

2 調査の概要

(1) 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立に役立てる。

(2) 調査内容

- ① 教科に関する調査
 - ア 小学校：国語、算数
 - イ 中学校：国語、数学
- ② 質問紙による調査
 - ア 児童生徒質問紙：児童生徒に対する調査
 - ※ 生活習慣、学習習慣、学習に対する興味・関心等
 - イ 学校質問紙
 - ※ 学校運営、授業改善の取組状況、指導方法等

(3) 調査概要

実施期日	令和6年4月18日（木）	
実施学年及び人数	小学校6年生 328名【17校】	中学校3年生 312名【7校】

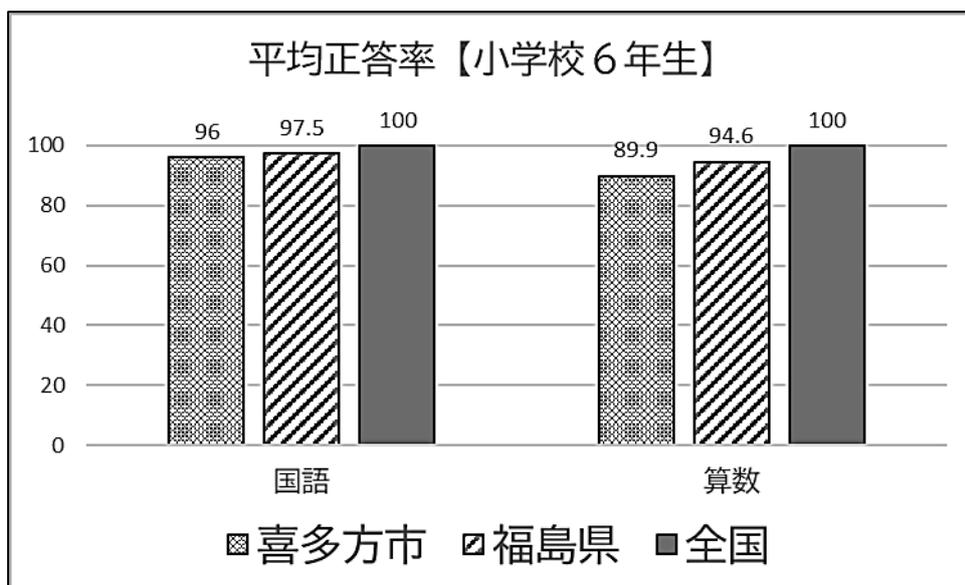
- 令和6年度 全国学力・学習状況調査の問題等
→ <https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>
- 令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果等
→ <https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/>

【国立教育政策研究所ホームページ】

(4) 調査結果 ※全国の平均正答率を100とした場合)

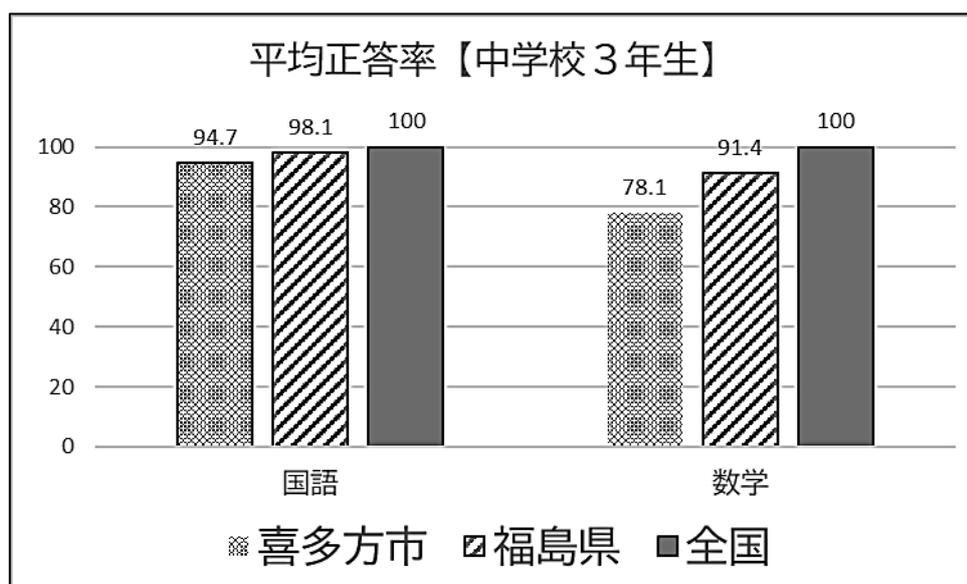
① 小学校6年生

	喜多方市	福島県	全国
国語	96.0	97.5	100
算数	89.9	94.6	100



② 中学校3年生

	喜多方市	福島県	全国
国語	94.7	98.1	100
数学	78.1	91.4	100



(5) 結果に見る本市児童生徒の特徴【各教科】

① 小学校6年生

	成果が見られた設問	課題が見られた設問
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字を文の中で正しく使うこと →【設問番号2三イ】 ○ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること →【設問番号3三】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと →【設問番号1二(1)】 ● 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること →【設問番号3二(1)】
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 直方体の見取図について理解し、書くこと →【設問番号3(1)】 ○ 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している →【設問番号3(2)】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 除数が小数である場合の除法の計算をすること →【設問番号4(1)】 ● 速さの意味について理解している →【設問番号4(4)】

② 中学校3年生

	成果が見られた設問	課題が見られた設問
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること →【設問番号1一】 ○ 行書の特徴を理解している →【設問番号4三】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 文脈に即して漢字を正しく書くこと →【設問番号3三】 ● 短歌の内容について、描写を基に捉えること →【設問番号4二】
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる →【設問番号6(1)】 ○ 二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈すること →【設問番号8(1)】 	<ul style="list-style-type: none"> ● 連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すこと →【設問番号1(1)】 ● 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること →【設問番号6(2)】

(6) 結果に見る本市児童生徒の特徴【質問紙】

※ 数値は「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答を選択した児童生徒の割合

① 小学校6年生

	質問事項	喜多方市	全国との差	全国
強 み	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	88.2%	+7.4	80.8%
	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	84.6%	+6.7	77.9%
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	94.1%	+6.2	87.9%
	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	90.2%	+6.0	84.2%
	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	85.4%	+5.8	79.6%
課 題	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか ※「持っていない」と回答した児童は12.8%	65.6%	-5.5	71.1%
	5年生までの学習の中における ICT 機器の活用について、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	81.0%	-5.1	86.1%
	5年生までの学習の中における ICT 機器の活用について自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	82.5%	-3.0	85.5%

② 中学校3年生

	質問事項	喜多方市	全国との差	全国
強 み	将来の夢や目標を持っていますか	74.5%	+8.2	66.3%
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	84.2%	+8.1	76.1%
	国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか	84.5%	+7.8	76.7%
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	88.4%	+7.7	80.7%
	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	72.0%	+7.2	64.8%
課 題	数学の勉強は好きですか	50.3%	-6.9	57.2%
	朝食を毎日食べていますか	88.4%	-2.8	91.2%
	自分には、よいところがあると思いますか	80.7%	-2.6	83.3%

小学校6年生の調査結果から、本市においては、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」が進んでいると考えられます。

その一方で、「ICTを活用した学習」に課題が見られました。タブレット等の効果的な活用について、全国の好事例等を参考にしながら推進していく必要があると考えます

また、携帯電話（スマートフォン）等の使用について課題が見られました。学校と家庭が連携して取り組む必要があると考えます。

中学校3年生の調査結果から、「挑戦する心」や「地域や社会に関わる活動」への意識の高まりが見られます。

その一方で、「学習に対する興味・関心」や「自己有用感」に課題が見られました。

また、就寝時刻については、よい傾向が見られた一方で、朝食摂取については課題が見られました。学校と家庭が連携して取り組む必要があると考えます。

学力向上に向けた取組

喜多方市教育委員会

全国平均との差は
「およそ1問」と
いう数値です！

「あと1問」の意識を高めるために
～学校・家庭・地域・教育委員会が手を携えて～

学校・家庭・地域・教育委員会が、それぞれ
の立場で「何ができるか」「何が必要か」
について知恵を出し合っていきましょう！

指導主事の派遣

- ◎ 学校教育課の指導主事と学校経営アドバイザーが各学校を訪問し、授業改善について一緒に考えます。
- ◎ 指導主事または学校経営アドバイザーによる「提案授業」を実施します。また、T2として授業の支援を行います。さらに、授業後には授業の振り返りを行います。

PDCAサイクルの確立

- ◎ 各学校において、全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査の結果の分析を行います。特に、ふくしま学力調査については、児童生徒一人一人の伸び等を把握することで、授業改善につなげていきます。
- ◎ 上記2つの調査を踏まえた授業改善の成果について、ベネッセ総合学力調査において検証します。

全国学力・学習状況調査の問題の活用

- ◎ 全国学力・学習状況調査の問題を授業や中学校の定期考査等において活用することで、児童生徒の既習事項の振り返りにつながります。また、「ジャンプの課題」として活用することも考えられます。

学校を支える
家庭・地域

家庭：家庭学習のあり方や子どもたちの生活について、共に語り合う時間を設ける
地域：よりよい生活習慣や規範意識を確立させるために、あいさつや日常的な関わりをこれまで以上に意識する